



保 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~
 【今月の一冊】「感謝」で思考は現実になる
 パム・グラウト 著 サンマーク出版
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2023年5月1日 Vol. 247
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 代表取締役 渡邊敏徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

五公五民

五公五民は、江戸時代の年貢率を表現した言葉で、全収穫量の五割を領主が取り、残り五割が農民の手元に残ることを示しています。今わたしたちの国民負担率は、「五公五民」と呼ばれてしまう程に高くなってしまいました。

「国民負担率」とは、国民所得に対する税金と社会保険料の合計値の割合を意味しています。その水準が今47.5%になると予想され、そんな「重税」に対して多くの国民が憤り「五公五民」という言葉がトレンドワードになりました。今年の2月に財務省は、2022年度の「国民負担率」が47.5%になる見込みだと発表しました。過去最大だった2021年度の48.1%をやや下回ったものの、国民所得のほぼ半分を占めていることになりました。

国民負担率は、国民所得に占める税金や社会保険料(年金・医療保険など)の割合で、いかに公的負担が大きいかを国際的に比較する指標の一つとなっています。2022年度は、税負担が28.6%、社会保障負担が18.8%で、合計で47.5%と見込まれました。

国民負担率の統計が始まったのは1970年度ですが、実はこのときは24.3%しかありませんでした。20年前の2002年度でも35.0%でしたが、高齢化にともなう社会保険料の増加などで、2013年度に40%を超えました。

20年前には30%台だったので、つまり「三公七民」程度だったわけです。さらに遡れば、半世紀前の高度成長期の1970年代では、国民負担率は今の半分以下の20%台前半でしたので「二公八民」という状況でした。

日本の税制は、不況時の場合には「自動的に」に「減税」となり、好況時には「自動的に」に「増税」がされることになる自動的な増税減税のメカニズムになっています。この税制度に埋め込まれた“安定化装置”だという趣旨で「ビルト・イン・スタビライザー」機能と言われます。貧しい国民は苦しいのだから重税は課さず、税負担を軽くすることが必要で、豊かな国民は、たくさん税を払うことができるのだから、ある程度重税を課しても大丈夫だという発想があります。



今の私たちの生活はデフレからインフレへと移り変わり、さらにコロナによるダメージも重なり経済状態はとてつもない状況が続いています。日本がかつての様な活力を取り戻すには、その原因を取り除かなければこのような状況がまだまだ続いていくと予想されますね。

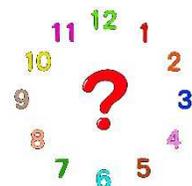
人生は短い

「人生は短い」という内容をどういう風に伝えたいかということ、今月“還暦”を迎えるにあたり考えてみました。私が小さいころであれば、還暦と聞くと、60歳、定年退職、老後など人生の終盤というイメージを強く感じていました。

時間には限りがあり、人生は“有限”だと私たちは頭では理解しています。しかし、私たちの人生は永遠ではなく、必ずいつかは死ぬことを認識しなければなりません。最近では人生100年時代と言われますが、平均寿命から考えると、大体人生は3万日くらいです。皆さんの人生はあと何日残っていますか……。

自分の時間が限られたものと気づくと、時間はかけがえのないものだと思えてきます。小児がんを患った子どもたちは、健康な子どもたちと比べてより強靱な心を持つことが研究でわかっています。病気や事故などの大変な出来事は心に大きな傷跡を残します。しかし、その経験をしたがゆえに人間的に成長することができます。

人生はずっと続いていくという思い込みを私たちは持ってしまうと思うのです。そのことを正しくとらえ直すことで、人は誰でもありったけの生をそこに注ぎたいと心から願うはずで、限りある時間を大切にして、毎日の生活を豊かなものにしていきたいと思えます。



【座右の銘にしたい名言】



やるだけのことはやって、後のことは心の中で、そっと心配しておれば良いではないか。どうせなるようにしかならないよ。

(勝海舟/幕末の武士(幕臣)、政治家)